

単元名・目指す言語能力

夏休みの思い出を報告しよう ～話す事柄の順序を考える～

どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが分かるようにする。

〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕「学びに向かう力、人間性等」の3点を明記

第2学年

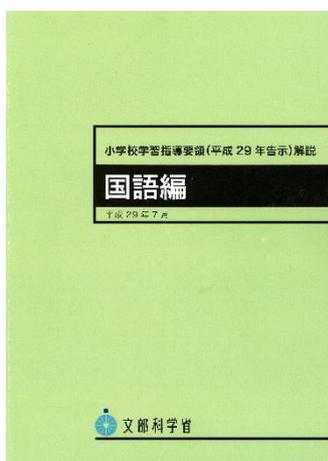
〔知識及び技能〕(1)オ

〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと(1)イ・エ
言語活動例 A(2)ア

文末を、「～できる。」として示す。

1 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
- (3) 話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)エ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」



「学びに向かう力、人間性等」は、**当該学年の目標**である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

※『学習指導要領解説国語編』を読み、指導事項を確認する。
冊子版もありますが、文部科学省HPからダウンロードすることもできます。

2 教材名

○○○○○○○○○ (教科書名 学年)

3 児童の実態

- ・ 目指す言語能力に関するレディネス
- ・ 過去の学習の達成状況
- ・ 全国学力・学習状況調査、県学力把握調査等の結果
- ・ 日常の取組 (N I E, 読書, 学校図書館の活用等)

国語の指導事項に関わる実態、
学習履歴、日常の取組等

4 指導の内容と言語活動，教材のかかわり

(1) 言語活動設定の意図

- ・言語活動を通して資質・能力を育むための手立て

【5つの言語意識】

- 目的意識 …… ために
- 相手意識 …… に対して
- 場面状況意識 …… 場面で
- 方法意識 …… を通して
- 評価意識 …… ことができた

(2) 教材の特徴

- ・教材分析を踏まえて，本単元の指導事項を身に付けさせるために関係する内容

5 単元の評価規準

指導する一領域を，「(領域名)において，」と明記

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①身近なことを表す語句の量を増し，話の中で使っているとともに，語彙を豊かに<u>している</u>。</p> <p>(1)オ)</p>	<p>①「<u>話すこと・聞くこと</u>」において，相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を<u>考えている</u>。(A (1)イ)</p> <p>②「<u>話すこと・聞くこと</u>」において，話し手が知らせたいことを落とさないように聞き，話の内容を捉えて感想を<u>もっている</u>。(A (1)エ)</p>	<p>①<u>進んで</u>，相手に伝わるように<u>話す事柄の順序</u>を考え，<u>学習の見通し</u>をもつて<u>報告しよう</u>としている。</p>

文末を，「～している。」とする。

文末を，「～しようとしている。」とする。

文末を，「～している。」とする。

*本単元では，〔思考力，判断力，表現力等〕A(1)イを特に重点的に指導し評価する。

当該単元で，特に重点化する指導事項を設定する。

- 粘り強さ〈積極的に，進んで，粘り強く等〉
- 自らの学習の調整〈学習の見通しをもつて，学習課題に沿って，今までの学習を生かして等〉
- 他の2観点において重点とする内容
(特に，粘り強さを発揮してほしい内容)
- 当該単元（や題材）の具体的な言語活動
(自らの学習調整が必要となる具体的な言語活動)

※作成に当たっては，「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照してください。冊子版もありますが，国立教育政策研究所からダウンロードすることもできます。



6 指導と評価の計画 (A「話すこと・聞くこと」〇〇時間中の7時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<p>○夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。</p> <p>○夏休みの思い出を複数想起し、その中から最も友達に報告したいことを選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の伝えたいという思いを引き出すために、教師が自身の思い出を紹介するなどして、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。 ・夏休みの思い出の中から、伝えたい思いの強さを手掛かりにして、一つを選ぶように指導する。 	<p>「単元の評価規準」について、評価する場面と評価方法を示す。また、実際の学習活動を踏まえて「Bと判断する状況」を具体的に想定して示す。</p> <p>[知識・技能①] カード ・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に沿った活用状況の確認</p> <p>[思考・判断・表現①] ワークシート① ・カードの並び順とその順序にした理由の確認</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ワークシート② ・友達との関わりを通して並び順を見直している様子の確認</p>
2 ・ 3 ・ 4	<p style="text-align: center;">図 省略</p> <p>○「始め—中—終わり」といった話の構成で話すことを確認し、「始め」と「終わり」については先にノートに記述する。</p> <p>○「中」の部分については、第1時で選んだ最も報告したい思い出を詳しく想起して、必要な事柄を四つから六つ程度カードにそれぞれ書き出す。 (カードの種類(例)) ・見たこと・したこと ・かんじたこと等</p> <p>○夏休みの思い出を友達に報告するためにはどのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら、ワークシート①の該当箇所にカードを置き、その理由を書く。 ※ ワークシート① 参照</p> <p>○友達と交流した上で、カードの並び順を見直し、その順序で報告しようとした理由をワークシート②に書く。 ※ ワークシート② 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上のような図を児童に示し、「始め」には、「いつ・どこで・だれと・どうした」を、「終わり」には、「全体を通して思ったこと」をそれぞれ一文程度で記述できるようにする。 ・選んだ思い出を詳しく想起できるように、日記や写真等を基に、経験や行動を振り返るよう助言する。 ・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉を確認し、カードの中で必ず用いるよう指導する。 ・物事や対象についてどのような順序で説明すると伝わりやすくなるか(例えば、経験した順に並べるなどの時間的な順序、感動の大きかったことの順に並べるなどの事柄の順序)について例を示す。 ・友達が並べたカードの順序と比べてみたり、友達と相談をしたりしながら、並べる順序を考えるよう促す。 ・最初の並び順から交流後に決めた並び順になった過程を振り返り、交流後の並び順に決定した理由を書くことができるようにする。 	
5 ・ 6 ・ 7	<p>○声に出して、夏休みの思い出について報告する練習をする。</p> <p>○グループ内で夏休みの思い出について報告し合い、質問する。報告が終わったら、ワークシート③に感想を書く。 ※ ワークシート③ 参照</p> <p>○夏休みの思い出を報告するという学習を通して学んだことを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの話し方(声の大きさや速さ)について、特に良いと思ったところを伝え合うようにする。 ・グループ編成に際しては、前時で交流していなかった児童に報告できるよう配慮する。 ・聞き手は、話の内容や報告の順序に注意して聞き、それらを踏まえて自分が感じたことをワークシート③の感想欄に記述するように指導する。 ・本単元の目標に則して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。 	<p>[思考・判断・表現②] ワークシート③ ・友達の報告に対する感想についての記述の確認</p>

7 本時の指導

- (1) 日時 令和 年 月 日 ()
- (2) 対象 年 組 児童 名
- (3) 目標
- (4) 授業の展開
- (5) 本時の評価

「おおむね満足できる」状況 (B), 「努力を要する」状況 (C) への手立て等を設定する。

8 資料

・評価の具体

「知識・技能」の評価, 「思考・判断・表現」の評価, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の具体 (Bと判断する状況やCへの手立て等)

・板書計画

・授業で使用するワークシート 等